



マージャンに関する認識につきまして

福岡県飯塚市

齊藤守史 市長 殿

田中秀哲 副市長 殿

全日本健康麻将協議会
理事長 金澤 喜重

今回の賭けマージャンに関する報道および記者会見による発言をお聞きし、健康マージャンの市民団体が会員である全日本健康麻将協議会を代表し、また全国の参加者を代表しまして非常に残念に思いましたので、マージャンの現状をお伝えし、ご認識を改めていただきたく書簡をお送り致しました。

■マージャンの現状について

そもそもマージャンは風俗営業法による許可営業として長い歴史の中で4人のコミュニケーションツールとして高度成長を支えたことは、同世代の市長・副市長はよく理解されておられると思います。しかしながら30年ほど前から徐々に社会環境が変化し、お金を賭けずに楽しむ「健康マージャン」が雀荘の昼間の営業として台頭し、高齢者の集いの場になり普及しました。現在では厚生労働省主催の60歳以上の方々を中心とした健康と福祉の祭典「ねりんピック」に於いて正式種目となっています。

また、インターネットではネットマージャンサイト一社で340万人もの会員が登録されるなど想像を超える卓数で日々、賭けないマージャンが行われています。

■当会の設立目的と文部科学大臣賞「全日本健康麻将選手権」の創設について

当初は雀荘の業態として健康マージャンは普及しましたが、ここ15年は日本中の市民活動の中でマージャンを賭けないゲームとして取り上げ、公共施設を利用し多くの参加者が生き生きと楽しんでいます。

ご理解いただきたいのは、誰一人「賭けよう」と思わないという事実を認識して頂きたいのです。

この状況からマージャンを高齢者のみならず囲碁や将棋と同じように生涯学習の観点から普及するために全国で積極的に活動している市民団体が集まり、地域交流を含め多世代が参加出来る体制づくりで当会が発足いたしました。

同時に文部科学大臣のご理解を頂き、文部科学大臣賞「全日本健康麻将選手権」を創設することになり平成29年1月29日に石川県金沢市に於いて、全国からの予選通過者による本戦が開催されます。

このように賭けずに楽しむことが当たり前になっている現状をご理解いただき、飯塚市に於いても、行政として健康マージャンへの取り組みをご検討いただき、市民の憩いの場として普及しますことを切に望みます。

平成29年1月

なお、麻将（マージャン）の語源は、1998年に井出洋介プロ（当会の特別顧問）が競技（賭けない）としての普及を目指す象徴として麻将（北京語のマージャン表記）を使う活動を推奨しており当会も団体に使用しています。